

ホーム名： グループホーム きさべ 1階					
外部評価	項目	自己評価	外部評価		
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	理念をホーム内に掲示し、全職員で共有、来訪者にも認知して頂いている。カンファレンスでの再確認も毎月行っている。	常に立ち戻るべき根本的な考えとしての理念が、ホーム内に掲示されている。職員にも浸透しケアに反映されている。	管理者の気持ちや理念にも表れて、職員にも浸透していると思われる。更なる継続をお願いしたい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	駅へと向かう道路に面している為に、挨拶は勿論、通りががりの方が庭に入って、行事に参加してくれたりと、交流できる環境にある。	庭でのバーベキュー等に近所の方が野菜を差し入れてくれたり、庭に椅子を並べて坐っていると近所の方も来られる。サポーター研修に参加しキャラバンメイトをしている。	今後、保育所、幼稚園、小学校などとの交流を考えられたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	気楽に立ち寄って頂き、介護相談や、見学が随時行われている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の推進会議は、御入居者と地域との繋がり、御入居者の様子等から意見交換を行い、サービスの向上に生かされている。	運営推進会議では事前に要点をまとめたレジメをつくり 地域の方々や、出席者が参加しやすい 工夫がなされ、サービス向上に結び付けている。	会議のレジメも作成され、議事録も充実し会議の内容がわかる記載である。入居者の家族の参加も多く、地元の人にも現状を知ってもらうよい機会となっている。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	市の介護保険課の取り組みに積極的に参加し最新情報や必要に応じ助言、指導を賜り、連携を図っている	市役所とは常時連絡をとっている。交野市G H協議会を設け、相互の交流や、介護向上に尽くしている。	市の担当者に積極的にかかわっていたただけている、これからも情報の交換に努め運営に生かされたい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束については、常日頃から研修や掲示にて身につけており、意識啓発に努めている。	身体拘束について研修を受け、保護安全確保として、入所者の行動パターンを把握し見守りを心がけている。直接道路につながる玄関は防犯上施錠は致し方ないと思われるが隣のスロープの入り口は常に開放状態にある。	身体拘束や虐待の防止について、管理者・職員は当然のこととして理解されているが、運営規定や重要事項説明書などに、身体拘束の項目を設けてはどうかと思われる。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の外部研修等にも積極的に参加し、研修内容を職場会議で共有しお互いのケアについても見過ごす事の無い様、一人ひとりが自己認識している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の権利として利用出来る物があれば、利用出来る様に支援している。		

9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>今までの経験を活かし、家族の知りたい情報・不安を察知し、十分な説明を行い、理解してもらってから契約に繋げている。</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日常的なコミュニケーションの中で、ご意見ご要望を、運営に反映させる様に努めている。</p>	<p>職員は家族の、困っていることや不安などをよく聞き、その時々状況や・要望に合わせて柔軟に対応を行っている。</p>	<p>管理者及び職員への信頼関係が強く感じられる。入居者家族の意見や要望を反映しながら、よりよいホームをつくりあげていって欲しい。</p>
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>毎日の申し送りでの職員の声を聞き、月に1度の職場会議での意見・提案を、必要に応じ、それらを反映させる様にしている。</p>	<p>更により介護を行っていくために、日々の気づきを申し送りの時間に汲み上げ介護に反映させている。</p>	<p>日々、より良い介護に取り組み改善していくため、介護方法の変更が多いとのことである。そのため職員の技量、連携などさらなる研鑽を願いたい。</p>
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>ライセンスに応じて昇給制度が有るために、ほとんどの職員がライセンス向上に努力している。毎月事前に希望休を把握、長期休暇、病欠も取れる、主婦が働きやすい職場を実践している。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>入職段階でホーム内研修を徹底的に行い、常により良いケアを出来る様にトレーニングを行い、ライセンス向上も積極的に働いているため、職員の半数以上が、介護福祉士。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>高齢介護課を中心に、グループホーム連絡会を通じ、ネットワークを広げ常に情報交換を行っている。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>見学・面接の中で、入居前の生活が維持できる様、家族様からの情報を最大限に活かせるケアに努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>お問い合わせ、見学の段階から家族の抱える不安苦しみ等を心から理解し、打開策を模索提案し安心して入居できる様努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>状況に応じ、他のサービスや医療機関とも相談している。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>まずは入居前の生活と変わらない様にサポート程度のケアに努め、本人の希望を見極め、介護されるという実感でなく、自分も必要な一人と思っ頂ける関係にして行くように努めている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族に代わって出来る事は職員が支援していくが、家族様にしか出来ない支援は、積極的に参加してもらう様、常日頃から呼び掛けている。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている</p>	<p>今までの生活が、場所を引っ越しただけと説明し、友人知人、近所の方の面会、外出・電話・手紙を支援している。</p>	<p>ご家族が訪ねてきたときに一緒に出来ることを残し、馴染みの店やレストランで食事をしている。家族が来られなかった人と一緒にスーパーに買い物にいたり外食をしたりする。</p>	<p>元入居者で有った方のご主人が、奥さん亡き後もホームを度々訪ねてこられ、入居者と語らうのを調査日に拝見した。個室に閉じこもらず皆と一緒に過ごしている暖かい感じをこれからも続けて頂きたい。</p>
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>一人ひとりに合った過ごし方を把握し、利用者同士が仲良く暮せる様、見守り心地良い関係の構築に努める。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>契約終了後も家族様とのお手紙交換や、いつでも立ち寄って頂けるよう、終了時に説明している。今もボランティアとして来訪して下さる家族様も多くいらっしゃる。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	いつも『その人らしさ』をモットーに本人本位の暮らしに努めている。	入居により生き生きとした表情になり、思いや要望をわかってもらっていると、家族の声がアンケートに散見された。また毎月、家族にきさべ新聞を送る時入居者の日頃の様子を手紙でお伝えしている。	思いを汲みとめることは当然と日々研鑽されている。入居者が意思の表出が出来る支援の継続を願うとともに、これからも自分らしく生活していけるホームであってほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入居時に家族様からのお話を傾聴し、生活歴の把握に努め、本人の生活が維持できる様、職員一同共有、実践に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りで、情報交換をし共有実践に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送りから、問題点やより良いケアになる方向へのアドバイス等を、家族、医師を交えて話し合い、本人にとって一番安楽な暮らしに寄り添った計画を実践している。	6か月に1度入居者の状態に応じた介護計画を作成、介護計画の見直しは毎日の申し送りで少しずつ変えていく。	わずかな変化にも対応する。管理者が看護師で現場にもいるということ、日ごろから研鑽されている職員によってはじめて対応できることだと思う。これからもきめ細かい計画作成の継続を願う。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録徹底に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	『医療連携』や個別ケアに必要な事は、家族様との話し合いの中で、柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	田畑に囲まれたホームは、散歩に出れば、お野菜を頂いて帰って来たり、お寺ではお茶とお菓子を楽しませて頂いたり、地域に根付いた暮らしを楽しませて頂いている。		

30	11	○かかりつけ医の受診診断	毎週月曜日、ホームドクターの往診。入居者の緊急時は24時間連絡が付き、すぐに駆けつけて頂ける体制が整っている。	入居開始時は各自の主治医で継続受診されていた方も、月日が経つとホームのかかりつけ医に変わる場合が多い。専門科医が必要な場合は元の主治医に継続受診出来ている。	かかりつけ医は毎週診察をしてくださる。特に重症の入居者がいるときは毎日診察してもらえる。管理者である看護師との連携がとれていて24間体制の対応が出来ている。
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	毎日の申し送りの中で、気になる事があればすぐに看護師に申し送り、必要な処置があれば、継続的に観察、必要ならば医師への連絡役ともなっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時はホームからとホームドクターから情報提供を行い、退院時は病院からの情報交換、リハビリ等の見学と、退院後も切れ目の無いケアに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホーム開設以来、終末まで生活出来る様、家族とのコミュニケーションの構築、本人家族の意志の確認を行い、医師を交え家族と話し合う機会を設けている。	ホームでの看取りは家族の協力が欠かせない。家族とよく話し合い、医師の意見でホーム内看護師ができることを検討してホーム内看取りの実行を決定する。	ホームの代表者が管理者であり、看護師であることで看取りの方針には揺るぎがない。家族との連携が取れ、医師の協力を得て在宅でできる最大限の医療と介護支援のもと看取りを行ってきている。職員を守るためにも、家族と意思の疎通を図り、最後までトラブルなくターミナルケアが出来ている。開設以来今までの看取り件数は多い。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故に面した時の応急手当は常日頃から、看護師より伝授、訓練している。その後の処置に関しては管理者、看護師、ドクターのいずれかに必ず連絡する様になっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	春、秋の避難訓練を実施。同時に避難路、避難具の確認。近隣に対し災害時の応援を自治会を通じ回覧して頂いている。	避難訓練時消防署から具体的に指導を受け、タイムキーパー訓練もし、入居者も参加した。災害時避難場所が交野小学校であることを家族には伝えている。早い段階にスプリンクラーの設置はしていた。	いざという時に自治会の協力を依頼している。また近所の方も「そんな時は声をかけてください」と言っていた。ホーム内調理であるため食料は常に備蓄している。リネンの備蓄はある。とっさの時に慌てないためにも時にはミニ訓練もして見られたい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常日頃入居者は、この世の中を築いてくれた大先輩であると尊敬の念を持って人格を尊重し、プライバシーの確保にも留意している。	入居者とは信頼関係の構築に重点を置いていく。入居開始時の動揺も日が経つと共に落ち着き穏やかになっていっている。	入居者が嫌な思いをされないことが何よりも人格尊重である。職員の定着率も高く入居者の思いを汲みとることを日々重ね、入居者の表情と職員の会話も楽しそうに見受けられた。さらにより関係の構築を続けられたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	献立選び、レクリエーション等、何気ない会話から、希望を表せる雰囲気作りをし、傾聴に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは有るが、その中で入居者の気分体調に沿った生活で有るよう、柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じたお洋服を、本人が選べる間は自分で選び、選ぶ事が出来なくなったら、好みを本人に聞いて準備している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の中で食事は楽しい物。好みのものをアセスメントし食事が楽しいものになるよう心掛けている。	昼食は入居者と共に作れる献立にして出来る入居者が職員と一緒に作る。夕食は調理専門の職員が作っている。食材は管理者や職員が吟味して注文し業者から届く。外食は家族との時間を持ってもらうように家族と行ってもらう。菖蒲園などの遠足の際は会議室を取ってもらいゆつくり食事が出来るようにしている。	外部業者に委託する食事の多くなっている昨今、ホーム内調理を徹底し、昼食はみんなで作られる献立にし、職員も同じ食事を一緒に食べる、など心温まる家庭的な食事時間になっている。お節もホームでみんなで作った。これからも食の楽しみが満たされる支援の継続を願う。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	食事、水分量は利用者ごとに記録。水分量はそれぞれの個々に使っている量を周知し提供ごとにさり気無くチェックし1日量をトータル記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアは徹底実施。口腔ケアが出来なくなったら、緑茶ケアを実践している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェックシートを活用しその人その人に合わせた支援を実施している。	介護度が進んでいられる入居者にもできる限りトイレでの排泄を継続するよう日々努めている。	自立排泄は意思の表出の場面であり、トイレ排泄の全身機能への効果は計り知れない。できる限り自立排泄できる支援の継続を期待する。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量のチェック、献立の工夫、生活の中での運動量、体操などを行い、排便時間も設けて実施。それでも困難な方は、緩下剤の微調整を行って、排便サイクルを掴む様にしている。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	夏入浴は週3回、冬入浴は週2回と決められては居るがその人に合った都合にて、その都度変更し、スタッフは一人一人の状態によって介助の方法を支援している。	嫌がる方もいるが工夫をして週に夏は3回・冬は2回の入浴をする。重度になられた方も職員が複数で入浴支援する。胃ろうの方も入浴支援できている。	衛生面、全身の活性化のためにも入浴は大切である。重度の方もできる限りお風呂に入ることを支援している。今後とも心地よい入浴の支援を続けられたい。

46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>個々の生活習慣を入居時にアセスメントし、安眠できる体制を作ると共に、昼間の生活が充実する様に支援する。</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>服薬内容は各フロアスタッフは周知し、2段階チェックの元、投与する間際に再度、名前の確認をして投与している。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>一人ひとりに合った『出来る事出来ない事』を周知しその人にあった出来る事を生活の中で見出し『役にたっている!!!』感を味わえる様支援している。</p>		
49	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>ほぼ毎日庭に出て外気に当り、散歩に出たいと自ら動き出す機会を作っている。家族との外出、ホームからのレクでの外出は、準備を整えて参加出来る様定期的に行っている。</p>	<p>日常的には近所を散策し高架下で涼んだり、スーパーマーケットに行く。重度化しても寝たきりにさせない支援を行っている。個々の外出は家族との時間を大切に考え家族にゆだねる。ホームの遠足として枚方パーク、菖蒲園などに行く。</p>	<p>よそに行くときよそ行きの顔になっているということである。外出は全身機能の活性につながる、重度化されても外気浴が出来ることもあり前庭でお茶をみんなで楽しむ。外へ出ることの支援を継続されたい。</p>
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>可能な限り、買い物では自分で支払ってもらっている。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>自由に電話・手紙が出せる様支援し、携帯電話などの使用も特に制限していない。</p>		
52	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>常に居心地の良い空間で有る様に努める、お掃除、匂い等には、特に気をつけ、プライバシーの配慮にも気を付ける様心掛けている。</p>	<p>リビングの掲示物、「ホームの歌」の歌詞を入居者に書いてもらって掲示してある。掲示したいものが出来るとその方に書いてもらうということになっている。掃除は職員がするが手伝える入居者は手伝っている。</p>	<p>「ホームの歌」は入居者の家族が作詞作曲してくれたもので、行事の時にみんなで歌っている。その他幼稚な掲示物はなく大人のリビングの感に設えられている。</p>
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになったり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングはいつも入居者が談笑し易い様に、食席とソファを配置、入居者それぞれが好きな様に座ってくつろいでいる。</p>		
54	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた物を持ち込んだり、写真や壁飾り等、それぞれ工夫して心地良い空間を作って生活されている。</p>	<p>居室にはホーム備え付けの洋服ダンスとチェストがあるが入居者ごとに少しづつ違っている。カーテン・布団はリースで季節ごと、汚れた時は取り替えてその都度業者に出して洗っている。天気の良いときは布団を干す。</p>	<p>家具を持ち込みとしないのは、最期の時の処分に困るのが理由である。小物など思いのものを持ち込むことは拒んでいない。入居者により問題ない場合、見当識後退防止のため、時計・カレンダーのない部屋には設置されたい。</p>
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ゆくゆくの事を考え、車椅子や歩行器が使えるようにハード面ではバリアフリーにし、車椅子のままリビングや表に出る事が簡単のように支援している。</p>		

V アウトカム項目		
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられれている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は活き活きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない